

第 2 期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略

重点プロジェクト評価・検証シート

(令和 5 年度実績)

目 次

〈K P I 達成状況：達成 12 項目 概ね達成 2 項目 未達成 10 項目〉

1. まちの未来創造

数値目標「合計特殊出生率」	1
数値目標「交流人口」	1
N o. 1 住民による地区別計画推進の取り組み件数	2
N o. 2 市内路線バスの日利用者数	3
N o. 3 まちなか交流プラザ来館者数	4
N o. 4 宿泊者数	5
N o. 5 ナビデスク相談件数	6
N o. 6 地域おこし協力隊の定住者数	7
N o. 7 広域観光造成ツアー商品数	8
N o. 8 観光入込客数	9
N o. 9 インターンシップ受け入れ者数	10
N o. 10 羊と雲の丘来場者数	11
N o. 11 土別サフォークラム取り扱い飲食店数	12
N o. 12 新たな技術開発の試験研究件数	13
N o. 13 企業等との連携件数	14

2. 農業未来都市創造

数値目標「農家戸数」	1
数値目標「成雌めん羊飼養頭数」	1
N o. 14 排水性向上対策（暗渠施工延長）	15
N o. 15 土づくり対策（堆肥・緑肥施用面積）	15
N o. 16 新規就農者確保数	16
N o. 17 G P S ガイダンス活用面積	16
N o. 18 水管理システム台数（給水栓自動制御）	17
N o. 19 飼養技術研修会に参加する生産者数	18
N o. 20 新規めん羊飼養者数・新規飼養戸数	19

3. 合宿の聖地創造

数値目標「合宿者数」	1
数値目標「招致チーム数」	1
N o. 21 リピーターチーム数	20
N o. 22 チャレンジデーの達成率	21
N o. 23 スポーツイベントの参加者数	22
N o. 24 オリンピックデーラン参加者数	23

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略重点プロジェクト数値目標(令和5年度実績)

■まちの未来創造

担当課	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
企画課	合計特殊出生率	1.36 全国平均1.42	1.35 (H30～R4) 全国平均1.26 (R4)							1.5 全国平均以上
商工労働観光課	交流人口	334,312人	290,000人	616,078人	586,009人	560,428人				460,000人/年

■農業未来都市創造

	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
農業振興課	農家戸数	585戸	553戸	537戸	492戸	470戸				450戸
畜産林務課	成雌めん羊飼養頭数	614頭	655頭	649頭	641頭	678頭				1,000頭

■合宿の聖地創造

	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
スポーツ推進課	合宿者数	延24,223人	延11,462人	延14,314人	延16,271人	延21,177人				延24,900人
スポーツ推進課	招致チーム数	延487チーム	延217チーム	延270チーム	延380チーム	延415チーム				延500チーム

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.1	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
住民による地区別計画推進の取り組み件数		3	3	3	3	4	4	4
基準値(2018年度): 3件/年								
目標値(2026年度): 延24件		4	1	4	4			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		「まちの地域力」推進事業						
【事業概要】 士別市「まちの地域力」推進事業支援要綱に基づき、まちづくり総合計画地区別計画等に位置づけた取り組みや協働による公益的なまちづくり活動の取り組みを支援し、地域力の向上を図る。 【実施状況】 ・一次募集 募集なし ・二次募集 令和5年7月審査会 申請1件、採択1件 ・随時募集 令和5年7月審査会 申請1件、採択1件 - 令和5年8月審査会 申請1件、採択1件 - 令和5年9月審査会 申請1件、採択1件 【主な取り組み】 ・多寄のまちづくり事業 2年目 ・まちなかにぎわい広場推進事業 1年目 ・しべつまちゼミ 1年目 ・尚記杯争奪北海道4年生交流野球大会 1年目								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、必要な感染対策を講じたなかで四団体により事業が実施された。5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、延期となっていた事業が再開されたほか、新たな地域活性化イベントの動きもあり、目標件数の達成となった。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
行政として、団体が取り組む先進事例やモデル性の高い取り組みなど、他地域に効果が広く波及する事業について効果的に広報周知を図るとともに、自治会や団体との連携を密にするなかで地域への広がりを高める必要がある。 各事業の効果について、行政としての検証が必要である。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.2	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
市内路線バスの日利用者数 基準値(2018年度):1,180人/日 目標値(2026年度):1,200人/日		1,180	1,180	1,185	1,190	1,195	1,200	1,200
		550	581	568	629			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		地域公共交通総合対策事業						
【事業概要】 士別市地域公共交通活性化協議会の研究組織として有識者、連携企業等で構成する「士別市次世代モビリティ推進会議」において、「士別市次世代モビリティビジョン」に掲げる市民ニーズの変化に対応する公共交通の確保と持続可能な公共交通維持のため、関係者間の連携やデジタル化の推進、利用環境の改善等の取り組みを支援する。 【実施状況】 バス事業者では、冬期間に運行する市内循環線「わくわく買い物線」について、乗車実績等を分析し運行期間を11月から4月までの6ヶ月間から12月から3月までの4ヶ月間に短縮し、最終便の減便を実施した。 タクシー事業者では、公共交通の利用促進に加え、共働き世帯の習い事送迎にかかる負担軽減効果と住民ニーズ把握を目的とした「習い事応援タクシー」の実証実験を令和4年度に引き続き実施し、利用料金や実施方法、事業の効果等の検証を行った。 【主な取り組み】 ・「わくわく買い物線」の運行（運行期間の短縮・減便） ・「習い事応援タクシー」の実証実験（7月～2月）								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
公共交通の利用者が減少傾向にある一方、住民ニーズの多様化による利便性の高い安定したサービスの提供が求められている。事業者の経営維持と効率的な地域の足を確保していくためには、利用者が少ない路線の減便や見直し、新たな利用促進に向けたさらなる取り組みが必要となっている。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
人口の自然減が続く本市においては、公共交通利用者の回復は見込みが難しく、既存の地域交通網を現状のまま維持することが極めて困難な状況にあることから、士別市次世代モビリティビジョンに掲げる「協働と連携によるシームレスなモビリティ」の具現化にむけて、運行面でのバスとタクシーの役割分担や共通利用化など、新しい視点を組み合わせた「将来における士別市の交通体系」の構築を進める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.3	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	まちなか拠点の整備による賑わい創出 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
まちなか交流プラザ来館者数		-	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
基準値(2018年度):-		-	387,099	294,586	273,660			
目標値(2026年度):延 720,000人		-						
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中心市街地活性化事業						
【事業概要】 令和3年5月1日にまちなか交流プラザがオープンしたことにより、これからの観光情報の発信や観光拠点としての役割など、必要な取り組みについて、まちづくり士別株式会社など関係機関と協議を進め、中心市街地の賑わい創出を図る。 【実施状況】 まちなか交流プラザは、「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」として、北海道で129番目の登録認定を受け、行政とまちづくり会社の情報共有及び意見交換などを円滑に行い、中心市街地の活性化の取り組みを行った。 【主な取り組み】 サフォークスタンプなど既存の取り組みとの連携 道の駅にて、春・夏・秋にイベントを開催。								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
道の駅オープン3年目を迎えるなか、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、順調に市内外から多くの方が来館され、目標値を上回る状況となった。 本施設は、24時間利用できる駐車場やトイレなどの休息機能があり、観光客や旅行者以外の利用者も多く、「道の駅」スタンプラリーなどの来館を目的とした取り組みなどの効果もあった。 また、「マイクログリーン」の浸透により、自家用車を利用した旅行形態の増加や、地元の魅力の再発見など、近場で楽しむ方が増えてきていることも理由と考える。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
令和6年度以降もまちなか交流プラザの「道の駅」としての集客力に期待するとともに、観光や窓口の設置（広域含む）、情報発信の強化（一元化）などの拠点として、まちづくり士別株式会社と協力し、まちなか交流プラザ来館者の集客に努める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.4	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	まちなか拠点の整備による賑わい創出 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
宿泊者数		81,000	81,000	82,000	82,000	82,000	83,000	83,000
基準値(2018年度): 80,554人/年 目標値(2026年度): 延 574,000人		56,000	59,450	74,840	99,884			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中心市街地活性化事業						
【事業概要】 観光客及び合宿者が本市に訪れるような仕組みの検討や、訪れた方が再度訪れる(リピーター)仕組み作りを行うとともに、客室の空き状況などを一元化できる仕組みづくりを進める。 【実施状況】 令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類になったことにより、本市を訪れる観光客及び合宿者などの宿泊客が順調に回復し、昨年よりも増加した。 【主な取り組み】 情報発信の強化(一元化)								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☒ 概ね達成 ☐ 未達成						
宿泊者数は目標値を概ね達成することができており、新型コロナウイルスにより落ち込んだ観光需要、さらには及び合宿者や試験関係者の回復が主な要因と考える。 「道の駅」の開設によって観光入込客数は維持し、宿泊者数についても昨年度より増加していることから、観光客及び合宿者の本市へ訪れるような取り組みを継続して進める。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
宿泊者の受入体制の整備、インターネット利用者に向けた戦略的な観光プロモーションを進める。また、PR動画や誌面、WEB広告など多様な情報発信ツールを効果的に活用する。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.5	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	移住・定住パッケージの構築 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ナビデスク相談件数		-	20	25	30	35	40	50
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 200件		-	67	63	76			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		移住定住促進事業						
【事業概要】 移住希望者のニーズに対応した移住定住に関する情報発信や生活全般に関する相談・サポート機能を備える総合窓口「移住ナビデスク」の運営により、移住を検討している方の不安解消や移住支援を進めるとともに、移住体験ツアーをはじめとするお試し移住の取り組みにより、士別市の認知度向上と、若者を中心とする将来的な移住・定住人口の増に繋げる。 【実施状況】 令和5年4月1日、「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」を運営しているまちづくり士別株式会社と士別市移住ナビデスク業務の委託契約を締結し、引き続き、情報発信の強化や休日及び祝日における相談窓口対応のほか、市役所庁舎においても引き続き相談対応した。都市圏の若者を中心に、移住コーディネーターや道内移住関連事業者との連携により、7～9月の期間においてふるさとワーキングホリデーを実施したほか、2月に移住体験ツアーを実施。就業や観光、地域住民との交流を通じて士別市の魅力を体感してもらったほか、農業や観光だけではない地域が持つ魅力について、市の情報発信に加え参加者のSNS発信もあり、広くアピールできた。 【主な取り組み】 ・士別市移住ナビデスクの運営(委託業務) ・移住者向けリーフレットの作成 ・雑誌等への広告掲載 ・ふるさとワーキングホリデー ・休日、祝日の窓口開設 ・SNSによる情報発信 ・移住体験ツアー ・親子ワーケーション								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
全国的に地方移住者が増加しているものの、依然として本市の人口減少・少子高齢は著しく進行している。オープン以降、道の駅が移住や観光に関する情報発信機能の拠点であることが認知され、相談件数が昨年度以上となったほか、移住体験ツアー等の取り組みの継続により、短期移住のみならず定住者の獲得に至った。今後も更なるナビデスクの機能強化のほか、移住体験ツアーをはじめとする移住体験の取り組みについても、強化していく必要がある。 【参考】 令和5年度ナビデスク相談件数: 76件(うち移住に繋がったケース1件) 令和4年度ナビデスク相談件数: 63件(うち移住に繋がったケースなし) 令和3年度ナビデスク相談件数: 67件 令和2年度ナビデスク相談件数: 75件								
■ 改善に向けた主な取り組み								
移住定住定策の総合的な見直しを図ることとし、令和6年度に移住定住交流促進協議会を設立する予定。地域住民や事業者の参画により地域一丸となって移住定住を促進することとする。 引き続き移住体験ツアーやふるさとワーキングホリデーを実施するほか、交流人口を1人でも多く関係人口化するため、ふるさと財団の補助も活用して、交流人口創出に関する取り組みの定着と関係人口創出の新たな仕組みの構築に向けた調査・研究を進める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.6	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	移住・定住パッケージの構築 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
地域おこし協力隊の定住者数 基準値(2018年度):1人/年 目標値(2026年度):延 7人		1	1	1	1	1	1	1
		2	1	3	1			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		地域おこし協力隊活動事業						
【事業概要】 地域力の維持や強化を図るため、地域おこし協力隊制度を活用し、地域外から新たな担い手や地域活性化策などを助言する意欲ある都市住民を受け入れ、定住定着にむけた取り組みを進める。 【実施状況】 地域おこし協力隊員は、令和5年度において2名が任期満了となり、うち1名は定住となった。任期途中で1名が退任したが定住には至らなかった一方、年度当初に1名の地域おこし協力隊員を新たに任用し、年度末時点で7名の体制となっている。 各隊員の活動については、毎月活動レポートの提出を求め、実施内容や進捗状況を確認している。また、退任後の定住をサポートするほか隊員間での連携や結束強化、地域との交流を図るため協力隊ネットワークを組織し、イベントへの出展や活動報告会を実施した。 (地域おこし協力隊員数内訳:R6.3.31時点) 農業支援員:2名 羊飼養: 3名 観光振興: 2名 【主な取り組み】 ・協力隊員へのサポート ・市ホームページ等による募集活動 ・起業・就業にむけた定期面談の実施 ・起業支援金の活用 ・イベントへの出展 ・隊員間での交流 ・活動報告会の開催による市民へのアピール								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
任期満了となった2名のうち、1名は隊員として従事していた事業所に就業。1名は市外へ転出。そのほか、途中退任となった1名も市外へ転出した。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
本市隊員の定住率が、北海道及び全国平均と比して大幅に低位で推移しているため、定住率向上に向けて、行政中心にサポート体制の充実を図るとともに、引き続き地域おこし協力隊ネットワークの強化とイベント出展等を通じた市民交流を進める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.7	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	広域連携による着地型観光の深化 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
広域観光造成ツアー商品数		4	4	5	5	5	6	6
基準値(2018年度):4商品/年 目標値(2026年度):6商品/年		0	0	2	0			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】 士別地域(士別市、和寒町、剣淵町、幌加内町)の観光資源を生かした広域観光ルートを形成し、多くの観光客が再度、この地域に来たいと思える新たな観光コンテンツの造成を広域で進める。 【実施状況】 令和5年度においては、前年度に実施していた北海道との連携による招へい事業はなかったものの、インバウンドの誘客・PRを連携して取り組んでおり、士別市・剣淵町・和寒町・幌加内町を構成とする1市3町着地型観光推進協議会によるスタンプラリーの実施や、WEBによる情報発信など、広域連携による地域PR・誘客促進を図った。 【主な取り組み】 情報発信の強化 WEBによる観光商談の実施。								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
北海道や1市3町着地型観光推進協議会等の広域連携による取り組みが、周遊観光コンテンツの造成からweb等を活用した情報発信の視点にシフトしている状況にあり、新たな周遊観光造成による広域観光ツアーの造成にはつながらなかったものの、「道の駅」のオープンによって、多くのツアー客が観光バスで来市しており、観光入込み客数の増加につながっている。 今後も、引き続き広域団体等と連携して、効果的な取り組みを検討する。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
今後においても、広域団体との連携を図ることで、周遊観光コンテンツの造成について検討を進める。 また、本市の観光コンテンツについては、魅力的なものが多いものの、情報発信について弱い面もあり、今後も観光情報発信に注力するなかで、本市に来客いただく効果的な取り組みを進める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.8	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	広域連携による着地型観光の深化 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
観光入込客数		336,000	456,000	457,500	457,500	457,500	460,000	460,000
基準値(2018年度): 335,400人/年 目標値(2026年度): 延 3,084,500人		290,000	616,078	586,009	560,428			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】 既存の観光コンテンツのほか、スポーツや農業体験等を組み合わせた新たな観光メニューや地元食材を活用した新メニューなど広域な取り組みにより進める。 【実施状況】 「道の駅 羊のまち 侍・しべつ」に市内外から多くの方が来館され、目標値を上回る状況となった。 また、1市3町着地型観光推進協議会による食と観光周遊スタンプラリー(紙媒体)と、JAFシステムとの連携によるデジタルスタンプラリーの2つのイベントを士別市、和寒町、剣淵町、幌加内町の1市3町で連携し実施したことで、地域への誘客を促進した。 【主な取り組み】 情報発信の強化 広域連携した着地型観光								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
今年度は、1市3町着地型観光推進協議会で広域連携し、引き続き近隣の観光資源を活かした「ドライブツーリズム」を推進した。インバウンドの北海道への観光需要も高まっていることから、引き続き取り組みを継続することで観光入込客数の確保に努める。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
今後の観光誘致の対策として広域連携による着地型観光の推進は継続しつつ、国内外の旅行者へ向けた地域への誘引策の検討を進めていく。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.9	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	広域連携による着地型観光の深化 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
インターンシップ受け入れ者数		3	4	4	4	4	4	4
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 27人		0	0	0	0			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】 外国人観光客の増加に伴う受け入れ側のインバウンド対応能力の向上に繋げ、交流人口の拡大を図る。 また、受け入れに必要なコミュニケーション能力・語学力の向上をめざす。 インターン生による各職場での体験をSNS等で情報発信するなど、地域における観光の魅力を広める取り組みを進める。 【実施状況】 本来であれば、国立高雄科技大学の日本語学科に通う台湾大学生を対象にインターン生を地域に迎え入れ、情報発信の拡大や相互交流の活性化を期待した取り組みを進める予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、インターンシップによる受け入れを中止した。 【主な取り組み】 インバウンド受け入れ環境整備								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
新型コロナウイルス感染症の5類への移行後、国立高雄科技大学からインターンシップの受入の連絡があったものの、日程や先方からの条件があわず、目標値には達成しなかった。今後は、これまで進めてきた台湾との交流の継続協議や、新たな地域との取り組みの検討のほか、地域がインバウンドを受け入れていく体制整備、関係機関との協議、さらには、より効果的な情報発信が必要である。また、ホストタウンの取り組みによる交流の仕方を検討する必要がある。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
令和6年度からは、台湾以外の交流先も広く対象とするなかで、WEBを駆使した戦略的な情報発信を実施する。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.10	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	”羊のまち士別”ブランドの確立 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
羊と雲の丘来場者数 基準値(2018年度): 50,547人/年 目標値(2026年度): 延 360,500人		51,000	51,000	51,500	51,500	51,500	52,000	52,000
		31,000	27,370	30,041	33,171			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】 本市の特産品や地元食材を活用したメニューの提供など、道内外の物産展等で積極的なプロモーション活動を実施する。 また、観光パンフレットやホームページ、SNS等の媒体を活用した効果的な周知を進める。 【実施状況】 これまで同様、売店販売やレストラン、バーベキューハウスにおいて羊のまち士別「サフォークラム」のPRや道の駅と連動した販売を行った。 【主な取り組み】 情報発信の強化								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
GWイベントやめん羊工芸館におけるイベント実施を行い、羊と雲の丘への来場者増加を目指した取り組みも行ったが、目標達成には至らなかった。 今後は、「道の駅」に来館する多くの方などを「羊と雲の丘」にも誘客するよう、連携した取り組みの構築が必要である。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
当地域に観光客を呼び込むため道北地域一体となった活動とともに、継続した羊のまち士別「サフォークラム」の周知を含めた観光情報発信や、道の駅に来館する観光客の羊と雲の丘への誘導など集客につながる取り組みを行う。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.11	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	”羊のまち士別”ブランドの確立 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
士別サフォークラム取り扱い飲食店数		4	4	5	5	5	6	6
基準値(2018年度):4店舗/年 目標値(2026年度):6店舗/年		5	6	6	6			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】 市内飲食店などでサフォークラム等の利用拡大を図り、幅広いプロモーションを通じて地域ブランド羊肉「士別サフォークラム」を発信し、本市への集客を図る取り組みを進める。 【実施状況】 道の駅がオープンしたことにより道の駅での「士別サフォークラム」のPRを実施できた。食してもらう、知ってもらう機会が増え、地域への誘客に努めた。 【主な取り組み】 情報発信の強化								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
士別サフォークラムを取り扱う店舗として「まちなか交流プラザ」が増えたことで、これまで以上に多くの人たちに「士別サフォークラム」を食ってもらう機会が増えた。 今後においても「士別サフォークラム」の消費拡大、PRの取り組みが課題である。また、本市の観光資源情報を増加するインターネット利用者に対して効果的に行うとともに、他分野や団体と連携した新たな体験型・滞在型観光の創出が必要である。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
本市が羊のまちであることのさらなる周知度向上と「士別サフォークラム」の情報発信に力を入れていく。 本市及び地域を訪れる観光客に「士別サフォークラム」の良さを知ってもらい、更なるブランド力の向上、提供店舗の増加に繋がる取り組みを継続して行う。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.12	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	Society5.0の推進 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新たな技術開発の試験研究件数		-	1	-	1	-	1	-
基準値(2018年度): 延 2件								
目標値(2026年度): 延 3件		-	1	1	1			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		企業誘致推進事業						
【事業概要】 本市に見合ったSociety5.0の構築に向けた調査研究を進めるとともに、MaaSの導入や自動運転の実証実験を中心に、本市が有する自然環境を生かした新たな技術開発の試験研究誘致に努める。 【実施状況】 見識のある企業との意見交換や「北海道自動車安全技術検討会議(事務局:北海道)」の参画等によって、WEBによるリモート会議を中心に、MaaSの導入や自動運転の実証実験に関する調査・研究を進めた。また、昨年度からの継続した誘致の取り組みにより、今年度冬期に市内において、国内企業による自動運転関連技術の試験が実施された。 【主な取り組み】 ・「自動運転試験」の誘致に向けた情報収集及び情報発信、北海道との連携、見識のある企業との意見交換 ・自動運転関連技術試験の誘致 1件(※参考値)								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
昨年度からの継続した誘致の取り組みにより、冬期に本市ならではの気候特性を活かして自動運転関連技術の実証試験が実施された。しかしながら、相談や本市からの資料提供を行ったものの誘致に至らなかったケースもあり、試験用路線等のラインアップやインフラ環境(電波、電源)等に改善の余地がある。なお、市内循環バスで利用できるバスロケーションシステムを引き続き運用し、Maasの概念を取り入れた市民の交通の利便性向上を図った。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
今後の取り組み強化に向け、HAIA(北海道自動車安全技術検討会議)との一層の連携強化のほか、多様化するニーズに合わせた自動運転用の道路・フィールドの設置に向けた検討を進める。また、近年、冬期積雪寒冷の条件を活かした短期的な試験ニーズがあり、常設の試験場ではない小規模な試験誘致に向けた新たな仕組みについても検討を進める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.13	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部企画課						
	基 本 施 策	遊休財産の活用も含めた企業誘致等によるまちの活性化 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
企業等との連携件数		1	-	1	-	1	-	1
基準値(2018年度): 1件/年								
目標値(2026年度): 延 4件		0	2	2	4			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		企業誘致推進事業、立地企業連携事業						
【事業概要】 特定遊休財産を中心に、利活用の見込みがない公共施設を活用した企業誘致を進めるほか、駅南工業団地の分譲に向け、積極的な周知等に努める。また、企業連携としては、立地企業との市民交流に引き続き取り組む。 【実施状況】 引き続き、企業誘致に向けた北海道との連携や見識のある企業との意見交換を実施したほか、駅南工業団地の分譲に関する北海道への情報提供を行った。また、特定遊休財産の活用提案募集や工業団地分譲に向けて、士別市と縁のある市外の企業へダイレクトメールを送付した。 立地企業との連携(取り組み)としては、トヨタ健康ウォーキング、ダイハツ安全運転講習、ブリヂストン北海道PG市民見学会、三協精器工業市民見学会を実施。 【主な取り組み】 ・北海道との連携、見識のある企業との意見交換、立地に向けた手続き進行(パネ工場誘致1件) ・トヨタ自動車士別試験場での健康ウォーキング開催(10月) ・ダイハツ工業との共催による健康安全運転講習の開催(6・9月)※件数は1件でカウント ・ブリヂストン北海道PGでの市民見学会開催(2月) ・三協精器工業北海道工場での市民見学会開催(3月)								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
企業等との連携として、例年開催しているトヨタ自動車士別試験場でのウォーキング開催、ダイハツ工業(北北海道ダイハツ販売)との連携による健康安全運転講座の開催、隔年開催であるブリヂストン北海道PGでの市民見学会の開催に加え、令和5年7月に本格操業を開始した、三協精器工業北海道工場の市民見学会の開催に至った。一方、特定遊休財産については、法令による規制のほか昨今の資材・コスト高騰により、企業の進出も停滞しているなどの問題があり、利活用に至ったケースはない。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
駅南工業団地については、新たに1区画が分譲に至ったものの、残る分譲地について引き続き募集を行う。 これまでの自動車等試験研究のまちの伝統や包括連携協定の締結による企業との関係強化は進めつつ、移住・定住促進の視点も併せもった新たな企業誘致の取り組みを引き続き進める。⇒定住者獲得と起業(企業誘致)につなげる。 ※お試し移住事業とワーケーション誘致の連携など								

第2期土別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.14	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	持続可能な生産基盤の確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
排水性向上対策(暗渠施工延長) 基準値(2018年度): 62,519m/年 目標値(2026年度): 延385,000m		55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
		64,740	43,561	35,236	33,251			
3250.9								
KPIに特に関連する事業		中山間地域等直接支払交付金						
【事業概要】 排水性の向上により、適期作業を可能とし、農作物品質の向上・生産量の増加及び営農機械の走行性の改善による農作業の効率化を図ることで、農業所得の安定化等により持続可能な生産体制の確立を図る。 【実施状況】 小規模な暗渠排水を実施し、排水性の向上を図った。 【主な取り組み】 暗渠施工延長 33,251m								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
近年の物価高騰により暗渠排水工事費が増加傾向にあることから排水対策の取り組みが減少傾向にある。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
中山間農業・農村活性化事業の周知により、排水性向上対策の推進に努める。								

No.15	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	持続可能な生産基盤の確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
土づくり対策(堆肥・緑肥施用面積) 基準値(2018年度): 2,294ha/年 目標値(2026年度): 延16,000ha		2,200	2,200	2,200	2,300	2,300	2,400	2,400
		2,379	2,327	2,098	2,022			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中山間地域等直接支払交付金・産地交付金・環境保全型農業直接支払交付金						
【事業概要】 農業の原点である土づくりの推進を図る。 【実施状況】 堆肥施用や適正な輪作体系の確立を図るため緑肥作物を導入し、農作物の収量・品質向上を図った。 【主な取り組み】 堆肥施用面積 1,294.3ha 緑肥作付面積 727.2ha								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況(見込)		☐ 達成 ☒ 概ね達成 ☐ 未達成						
農作物の収量・品質向上のため、堆肥施用や緑肥作物を導入し、持続可能な生産体制の確立を図る。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
肥料価格の高騰による化学肥料の低減に向け、引き続き土づくりの推進に努める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.16	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	担い手の確保・多様で安定的な経営体の育成 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新規就農者確保数		5	5	5	5	5	5	5
基準値(2018年度):8人/年 目標値(2026年度):延 35人		6	8	7	10			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		農業農村担い手支援事業						
【事業概要】 就農研修者・新規就農者・新規参入者など地域の担い手の確保・育成を図る。 【新規就農者内訳】 ・新規参入者 5人 ・Uターン(学卒者含む) 2人 ・雇用就農3人 【研修者内訳】 ・地域おこし協力隊員(農業支援員) 2人 【主な取り組み】 ・就農相談会への参加 4回 ・農業大学への訪問 1回 ・農業公社訪問 1回 ・募集掲載 市ホームページ(通年) 農業公社(通年) マイナビサイト(7月～9月・12月～2月) ・士別市担い手支援協議会の開催 4回 ・新規就農者等向け冬期学習会の開催 8回 ・就農研修者等との定期面談(随時) ・就農研修者の活動状況報告会 1回 ・産直マップの作成 掲載農家等 17件								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
新規就農者確保の目標は達成された。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
引き続き士別市担い手支援協議会等を開催し、担い手の確保について協議していく。								

No.17	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	スマート農業の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
GPSガイダンス活用面積		5,450	5,590	5,730	5,870	6,010	6,150	6,290
基準値(2018年度):5,174ha/年 目標値(2026年度):延 41,090ha		5,482	5,809	6,469	7,156			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		経営所得安定対策等産地交付金						
【事業概要】 GPSガイダンス活用により、農作業の省力化、低コスト化を図る。 【実施状況】 GPSガイダンスの活用促進のため、経営所得安定対策等産地交付金の取り組みメニューの一つとして設定した。 【主な取り組み】 GPSガイダンス活用面積 7,156ha								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
今後もGPSガイダンスの活用による農作業の省力化等が見込まれる。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
引き続き、経営所得安定対策等産地交付金の取り組みメニューとして設定し、GPSガイダンス活用の推進に努める。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.18	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	スマート農業の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
水管理システム台数(給水栓自動制御システム)		20	30	40	40	50	50	50
基準値(2018年度):- 目標値(2026年度):延 280台		56	2	6	1			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		多面的機能支払事業						
【概要】 スマートフォンで水田の給水栓管理を実施し、作業の省力化を図る。								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
【状況】 ・水管理システムが導入され、労働時間等の削減が図られた。 ※水管理の時間 1haあたり 期間 6/13～8/16 ・設置圃場 28min 既存圃場 102min 【課題】 ・自動給水栓のゴミ詰まりの問題により、導入を控えている。 ・当初計画は、標準区画3.4haに2台を予定していたが、1台での対応で可能となっている。 ・物価の高騰や他の機械への投資により、給水栓自動制御システムの導入の優先順位が後退している状況。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
給水栓自動制御システムの導入について、地域と協議していく。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.19	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部畜産林務課						
	基 本 施 策	サフォーク羊の供給体制の充実 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
飼養技術研修会に参加する生産者数 基準値(2018年度):4人/年 目標値(2026年度):延 90人		10	10	10	15	15	15	15
		28	24	36	51			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		めん羊振興事業						
【事業概要】 めん羊飼育に関する全国・全道の機関・団体や生産者などとの連携、また、農業応援アドバイザーによる飼養技術向上などの助言や労働力の確保などにより生産基盤の充実を図る。 【実施状況】 生産者及び法人従業員等が統一的な手法・見解による飼養技術取得を図るため、農業応援アドバイザーによる飼養現場の巡回指導を実施した。また、農業応援アドバイザーによる「サフォーク種の現状と課題」と題する講習会を開催し、飼養技術・知識の向上を図った。 【主な取り組み】 ・羊飼養現場巡回指導:2回、6施設28名 ・「サフォーク種の現状と課題」と題する講習会:23名								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
令和5年度、農業応援アドバイザーの飼養現場の巡回指導を2回行ったことに加え、生産者等の理解のもと「サフォーク種の現状と課題」と題する講演会を開催した。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
市内外の生産者や関係機関が集まる「サフォーク種羊共進会」や各種研修会へも積極的に参加することにより、引続き飼養技術の向上に繋げていく。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.20	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部畜産林務課						
	基 本 施 策	サフォーク羊の供給体制の充実 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新規めん羊飼養者数(上段)		1	1	1	1	2	2	2
新規飼養戸数(下段)		0	0	0	0	0	0	1
基準値(2018年度):-		1	1	1	2			
目標値(2026年度):延 10人・1戸		0	0	0	0			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		めん羊振興事業						
【事業概要】 サフォーク羊の新規生産者の確保及び既存生産者の規模拡大の取組に対して支援する。 「地域おこし協力隊制度」の活用や各種大学・専門学校生の受入などを推進し、人材の確保・育成を図る。 【実施状況】 令和5年度、生産者の協力のもと、羊飼育実習者3名を受入れた。 うち2名が令和6年4月1日から(1名:地域おこし協力隊、1名:市内法人)就労した。 【主な取り組み】 ・地域おこし協力隊の任用 ・羊飼養実習者の受入								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
任期满了を迎えた地域おこし協力隊2名が、市内法人に新規めん羊飼養者として就労した。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
R6年度から始まる「お試し地域おこし協力隊制度」も活用しながら、地域おこし協力隊制度を中心とした担い手の確保を行いながら、引続き士別めん羊生産組合と協力し、担い手確保・育成に向けた取組を推進する。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.21	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	合宿受け入れ態勢と招致活動の充実 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
リピーターチーム数		153	155	157	159	160	161	162
基準値(2018年度):149チーム/年 目標値(2026年度):162チーム/年		87	95	106	113			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		スポーツ合宿推進事業						
【事業概要】 トレーニング施設の環境整備をはじめ、合宿チームのニーズに応えた送迎体制を確保するなど、合宿受け入れ態勢の充実を図る。また、合宿の里士別推進協議会への補助による活動支援を行い、官民一体となった合宿招致活動を進める。 【実施状況】 男女実業団の駅伝大会などを訪問し招致活動を実施した。 士別と旭川空港や千歳空港間の送迎を行った。 施設の不良箇所を適宜修繕を行うなど、適切な管理によるトレーニング環境を提供した。 地元産の食材などを差し入れし歓迎の意を伝えた。 【主な取り組み】 ・クイーンズ駅伝(宮城県)、ニューイヤー駅伝(群馬県)などへの招致活動 ・旭川空港や千歳空港間の送迎 ・陸上競技場トラック走路一部修繕 ・合宿チームへの差し入れ (地元産)トマトジュース、羊肉、牛肉など								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
合宿者数とリピーター数は、前年に比べ増加したものの、目標値は達成することができなかった。 新型コロナウイルス感染症の5類移行により、実業団・大学合宿はコロナ禍以前に戻りつつある。 コロナ禍を境に士別合宿から離れたチームもあることから、練習環境や受入体制を整えとともに、高齢化等を理由に事業 継続を断念する意向の宿泊施設に対し、しっかりとした側面支援を図る中で、これ以上の宿泊キャパの減とならないよう連携 し積極的な招致をしていかななくてはならない。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
・宿泊施設の現状維持のために、既存受入施設との協議をきめ細かく行うとともに、合宿受け入れをしていない宿泊施設による 新たな受け入れに向けた働きかけが必要となる。 ・トレーニング環境の整備・修繕に努めるほか、合宿の閑散期の新たな種目・チームの招致を図る。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.22	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	生涯スポーツの推進 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
チャレンジデーの達成率		45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0
基準値(2018年度):27.1%								
目標値(2026年度):51.0%		16.1	24.2	30.2	-			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		市民スポーツ振興事業						
【事業概要】 ・スポーツウィークをととして、市民一人ひとりがスポーツの持つ意義や効果を理解し、生涯にわたって健康で心豊かに過ごすことのできる「まち」づくりを推進することを目的とする。 ・10月1日「健康ウォーキング」から10月9日「オリパラフェスティバル」(スポーツの日)までを期間とするスポーツウィークを設定。期間中は、気軽に参加できるスポーツ活動や運動教室の体験会等を開催。 スポーツウィーク終了後の個人における運動習慣や事業プログラムへの参加などに結びつけていくことを目指していく。 【実施状況】 スポーツウィークとして開催した全26プログラムにおいて総勢632人の参加があった。 【主な取り組み】 ○羊のまち・しべつ健康ウォーキング ▽実施日:10月1日(日) ▽実施団体/参加数 健康ウォーキング実行委員会 / 128人 ○トレーニング指導 ▽実施日:10月2日、4日、7日 ▽実施団体/参加数 (一財)士別市スポーツ協会 / 3プログラム・18人 ○いきいき健康センター事業 ▽実施日:10月3日～7日 ▽実施団体/参加数 いきいき健康センター / 16プログラム・111人 ○サロンdeボッチャ ▽実施日:10月5日 ▽実施団体/参加数 士別市社会福祉協議会 / 10人 ○宣言マラソン大会 ▽実施日:10月7日 ▽実施団体/参加数 朝日公民館 / 17人 ○スポーツチャレンジ教室(北海道事業) ▽実施日:10月8日 ▽実施団体/参加数 市合宿の里・スポーツ推進課 / 2プログラム・71人 ▽種目 : バスケットボール ▽講師(オリンピック) 鈴木靖、矢代直美 ○市民ゴルフ大会 ▽実施日:10月9日(スポーツの日) ▽実施団体/参加数 士別同友会カントリークラブ / 58人 ○オリパラフェスティバル ▽実施日:10月9日(スポーツの日) ▽実施団体/参加数 士別スポーツウィーク実行委員会 219人 ▽実施場所: 陸上競技場 ▽ゲストオリンピック: 鈴木 靖さん(スケート)・矢代 直美さん(バスケ)・郷 亜里砂さん(スケート)・松本 遥奈さん(スノーボード)・湊 祐介さん(ノルディック複合)・白砂 匠庸さん(パラやり投げ)								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
令和5年度のチャレンジデーには参加せず、新たな形で市民皆スポーツをめざす取り組みを進めるため、「士別スポーツウィーク」を開催した。期間中に多くのプログラムが開催され、市民に様々な運動機会を提供することができた。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
期間中のプログラムに参加することだけが目標ではなく、この機会を通じて多くの市民に運動習慣に繋がるきっかけとなるスポーツウィークの実施であったが、スポーツの日までの9日間での開催としたが、時期的に、その後の運動の習慣化には繋がりがなかった。その中でも、スポーツ協会やいきいき健康センターなどではウィーク後も継続したプログラム実施が開催されたなど大きな効果に繋がった。次年度からは実施時期を6月に変更し、ウィークをきっかけに多くの市民に運動習慣が根付く取組として実施していく。								

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.23	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	各種イベントの充実 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
スポーツイベントの参加者数		5,630	5,680	5,730	5,780	5,830	5,880	5,930
基準値(2018年度):5,624人/年 目標値(2026年度):5,930人/年		482	899	3,033	3,397			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		スポーツイベント開催事業						
【事業概要】 国内外のトップアスリートが参加する質の高い各種スポーツイベントの開催や市民の参画をはじめ、市内関係団体と連携を図りながら、魅力ある大会づくりを進める。 【実施状況】 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴いほとんどのスポーツイベントにおいてコロナ禍前の通常開催となった。 【主な取り組み】 ・士別ハーフマラソン大会 1,667人 ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ士別大会 279人 ・士別ディスタンス 86人 ・合宿の里士別記録会 24人 ・サフォークランド士別カップ少年サッカー大会 150人 ・インターハイウエイトリフティング 423人 ・全日本サマーコンバインド朝日大会 80人 ・全日本サマーjump朝日大会 98人 ・全日本ジュニア&レディースサマーjump朝日大会 54人 ・「合宿の里士別」ジュニアサマーjump交流大会 34人 ・クラレ高梨沙羅カップジュニアサマーjump朝日大会 56人 ・朝日ノルディックスキー大会 227人 ・オリパラフェスティバル 219人								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴いほとんどのスポーツイベントにおいてコロナ禍前の通常開催となったが、目標人数には届かなかった。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
参加者にとって魅力あるスポーツイベントにするための組み立てが急務。市外から多くの参加者が訪れるハーフマラソンなどは、宿泊キャパの関係からも日帰り若しくは近隣市町村に宿泊する一般ランナーの参加者数の増加に注力しなければならない。 具体として、士別らしい「食」の提供を主とするイベントとの共催などを検討するべきであり、観光協会と協議し取り組みを進めることとする。								

士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価・検証シート

No.24	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	オリンピック・ムーブメントの推進 上段：目標値 下段：実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
オリンピックデーラン参加者数 基準値(2013～18年度): 平均666人 目標値(2026年度): 730人/年		670	680	690	700	710	720	730
		125	143	467	-			
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		ホスタウン推進事業						
【事業概要】 開催地域の費用負担の増加を理由に、これまで30回を数えたJOC主催のオリンピックデーランの開催は難しいと判断し、本市独自のオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進することとした。 子どもから高齢者まで幅広い世代が集まる「オリパラフェスティバル」を代替イベントとして開催することとした。 フェスティバルでは、オリンピックとパラリンピアンを招聘し、オリンピックムーブメントの普及、啓発を図るとともに、様々なスポーツに触れる機会を提供することで、スポーツの楽しさや面白さなどの魅力を知ってもらう。 また、スポーツ教室では、オリンピックを講師に向かえ、トップアスリートの技術を間近で感じるなかで、よりスポーツに親しんでもらうイベントとして中学生を対象とした「オリンピック教室(オリンピック教室)」を開催する。 【実施状況】 ○オリパラフェスティバル ▽実施日 10月9日(月・スポーツの日) ▽実施団体／参加数 士別スポーツウィーク実行委員会 219人 ▽実施場所 陸上競技場 ▽ゲストオリンピック・鈴木 靖さん(スピードスケート) ・矢代 直美さん(バスケットボール)・郷 亜里砂さん(スピードスケート)・松本 遥奈さん(スノーボード) ・湊 祐介さん(ノルディック複合)・パラリンピアン・白砂 匠庸さん(パラ陸上やり投げ) 【主な取り組み】 ・オリパラフェスティバル 219人 ・オリンピック教室 2学年対象 士別南中学校 53人 士別中学校 58人								
■ KPI達成状況及び課題								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
本年度から新たな取組みとして「オリパラフェスティバル」及び「スポーツ教室」を開催した。 また、本市と包括連携を締結している北海道オール・オリンピックズの協力により、中学生を対象とした「オリンピック教室」を開催した。								
■ 改善に向けた主な取り組み								
今年度から本市独自の新たな形でオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進するためのイベントとして「オリパラフェスティバル」を開催した。士別スポーツウィークの最終日イベントとして連携開催した。 北海道オールオリンピックズとの連携により開催できたことに加え、オリンピック教室も同団体から講師を派遣いただき開催できた。 今後は開催時期について6月23日の「オリンピックデー」にフェスティバルを開催し、多くの参加者にオリンピックムーブメントを広める取組とする。								